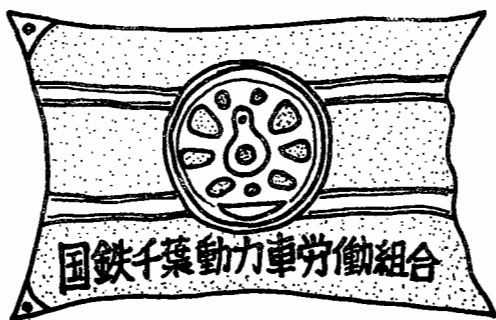




団結旗びらき
に結集しよう

日刊 勤勞千葉

82.1.8

No.937

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六・(公衆)四七三(22)七二〇七

激闘・勝利の82年にむけ

三里塚・反合春叩の高揚をかちとろう

動労千葉は1月16日、労働者福祉センター大ホールにおいて、「82年動労千葉団結旗開き」を開きます。

全組合員の参加によつて大成功をかちとろうではありませんか。

激闘の年Ⅱ 82年、
闘う労働運動前進の年Ⅱ 82年

82年は日帝・鈴木体制による軍事大国化・改憲にむけた攻撃が満開となり、反動攻勢はより激化することは確実です。

今日、日本の労働運動は、労働「統一」の名による総評解体攻撃を受けてガタガタに揺さぶられています。そして日本労働運動の中軸を担う国鉄労働運動は、三五万人体制攻撃の前に屈服し、つぎつぎと合理化をのまされている状況にあります。

例えば、千葉局で最初に駅無人化が提案された時、他労組は「これ以上やらない」との協定を結んで認めました。ところが当局はこれを一方的に破棄し、9駅の無人化を提案してきたのであります。結局、これものんでしまった現在、さらに、

13駅の無人化が提案されています。

つまり、敵が体制的・政治的攻撃をかけてきている時に、労働組合がいま変わらず今まで通りのやり方で対応しては、勝てるわけがありません。だからこそ、今、国鉄はじめ、あらゆる戦線・職場に、自前の力をつけてでも自力で闘っていくという新しい戦闘的な力も急速に芽ばえはじめてきているのです。

動労「本部」革マル反動分子のように「冬の時
代」論をこじつけて、全ての闘いを抑圧してまわ
り、三五体制・合理化の先兵となり、又、右翼労
戦統一の先兵として闘う部分に襲いかかる事に存
在価値を見出し、三月、再び三たび、動労千葉
破壊のための全国動員という悪あがきを策動して
いる連中は、徹底的に断罪し粉砕するのみです。

動労千葉「81・3決戦スト」がきり
ひらいた労働運動の進むべき道

こうした厳しい状況の中で、どう闘えばよい

の
で
し
よ
う
か。

それは、今春闘を三里塚と結合した反合春闘として闘うなかに、日本の労働運動の展望があると確信をもつていうことができます。

われわれは「三里塚闘争と反合闘争を水路とした自前の労働運動―路線のもと、81・3ジェットストライキを聞きました。

すなわち、3月ジェットストを打ち抜き、その反動としての動労「本部」革マル反動分子による「6・12事件」デッチ上げと6名逮捕という弾圧を受けつつも、戦略的に闘う事によって動労千葉の組織はより強化され、対当局との新たな力関係をつくり出し、三五体制攻撃を敢然とはね返しています。

「三里塚を闘う労働運動」の前進で勝利しよう

「反戦闘争、政治闘争は組合を弱体化させる」という今日の総評指導部の屈服的・敗北的姿勢をのりこえて、動労千葉はたとえ単独でも原則をつらぬく闘いをやりぬくことを通して日本労働運動の進むべき道を事実をもつてはつきりと示してきました。

今日、三里塚をめぐる状況は二期着工攻撃の強まりのなかで、反対同盟とりわけ敷地内農民に対する切り崩し攻撃として激化しています。

今こそ動労千葉を軸に、三里塚を闘う労働者本隊の決起の実現をめざし奮闘しなければなりません。

3・6に全国の労働者を津田沼・「習志野文化ホール」に大結集させ、3月動労「本部」革マル反動分子による三たびの組織破壊攻撃を粉砕し、3・28三里塚への大高揚をかちとろう。そのため、1・16団結旗開きの大成功を実現しようではありませんか。

一九八二年 団結旗開き

日時 一月十六日(土) 十三時～十七時

労働者福祉センター

第一部

- 講演 高島喜久男氏
- 基調報告 中野書記長

各支部決意表明

第一部

- ・各界、労組の
決意表明
- ・アトラクション
カラオケ大会他

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！